

巻 頭 言

取締役兼執行役員
技術本部長

福永 博文



わが国の経済は、規制緩和や税制改革等の政策の効果もあり持続的経済成長へ向け緩やかな回復基調で推移してきましたが、米金融政策の転換による足踏み感、中国を始めとするアジア新興国の景気減速などいまだに不透明な状況が続いております。

このような条件下でバブル崩壊から 20 年余りが経ち、円高等の逆風の中、国内の生産拠点を中国・ASEAN 諸国へ移した多くの日本の製造業も、自動車・電気・精密機械等の一部メーカーでは国内工場の稼働率・国内部品調達率を上げ、さらには工場を新設するなど国内回帰の動きが出始めております。

昨年、岩手県から鹿児島県に点在する「明治日本の産業革命遺産―製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」が世界遺産（文化遺産）に登録され、「ものづくり」に関わる多くの方々が心躍らせながら産業の歴史を振り返られたのではないかと思います。この文化遺産登録に際しては、積極的な技術の導入により約 50 年で飛躍的な経済発展を成し遂げたことが評価されたものと思いますが、「安心・安全」を追及し、「ものづくり」へのこだわりと柔軟性を持った日本品質（Japan Quality）と「ものづくり」への思いが脈々と受け継がれた結果であると考えております。

弊社は、平成 27 年度を初年度とする中期経営計画を策定いたしました。

大きく変化する経営環境の中、「社会的責任」、「顧客主義」、「コンプライアンス」を経営の三本柱とし、「付加価値・生産性向上」を図りながら事業構造の変革と新たな事業領域への拡大に取り組んでおります。

その基礎となるエンジニアリング技術の強化を図り、お客様へのご提案や付加価値提供を進め、更なる価値を創造するエンジニアリング事業に挑戦し続けたいと考えております。

本号は創業 75 周年の記念号として、平成 14 年に開設した研究開発の拠点の一つである九州工業大学寄附講座「プロアクティブメンテナンス（TAKADA）」や超音波切断・枚葉式洗浄などの装置に搭載された開発技術、海外拠点とその実績、技術製品、設備・点検工事の一端を紹介させて頂いております。

是非、これらの論文・報告をご高覧頂きまして、皆様の忌憚のないご意見・ご批評を頂ければ、誠に幸甚でございます。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。